

就労移行支援事業 ウィングル柏センター



平成25年2月に柏駅東口徒歩5分のビルに就労移行支援事業所のウィングル柏センターが開所されました。今回はサービス管理責任者の阿左美さんにお話を聞きました。

どんな方が対象ですか？

柏市内の方・柏周辺市にお住まいの方で障害の種別問わず、一般就労を目指している方や、一度離職された後、再就職を目指している方のサポートをしています。

開所時間は？

月～金の9:00から12:00と土曜日は10:00から12:00が開所時間になっています。通所に関しては、自分自身で曜日や日数を体調に合わせて考えたシフト通りに通所してもらるので、必ずしも毎日9:00～12:00まで利用する必要はありません。また、5月頃から週に2日程度の午後も開所し、主に自習のために訓練のスペースの提供という形を予定しています。

どんな内容ですか？

企業実習やパソコンの訓練やビジネスマナー講座といった就職後に必要であろうスキルと、就活講座や面接シミュレーション（面接の流れ・待合室での待ち方）・履歴書の書き方などの就職準備の段階の訓練をしています。現在登録23名で、1日に平均17・18名が参加されていて、グループワークや、自己分析・自分の障害を理解して相手に伝えると言った講座、外部から講師を招いての講義もあります。土曜日には、余暇活動としての茶話会や映画祭など平日とは違った活動をしています。

最後に一言お願いします

ウィングル柏センターでは、働きたい障害のある方へ就労に向けて力をいれてサポートしています。ホームページからも問い合わせ・見学の申し込みが出来ますのでお気軽にご連絡ください。利用に際しても、体験利用の後に意思を面談にて確認してからの正式登録になるので、安心してお問い合わせください。

パソコン業務による訓練やビジネスマナー訓練、企業実習、就活訓練など働いていく上で求められる様々なスキルを身に付けていくことで、企業が求める人材を考えての訓練カリキュラムは、運営が企業であるメリットに感じました。また、他の事業所との合同イベントやパソコン講座では扱わないパソコン知識などの講座などがあり、就労に向けた支援以外の活動も興味深いと思いました。



◇◇ご相談・お問合せ◇◇

〒277-0005
千葉県柏市柏4-8-1 柏東口 金子ビル4階
電話：04-7160-2730 FAX：04-7160-2731
ホームページ www.wingle.co.jp

「じんけん」ぽん

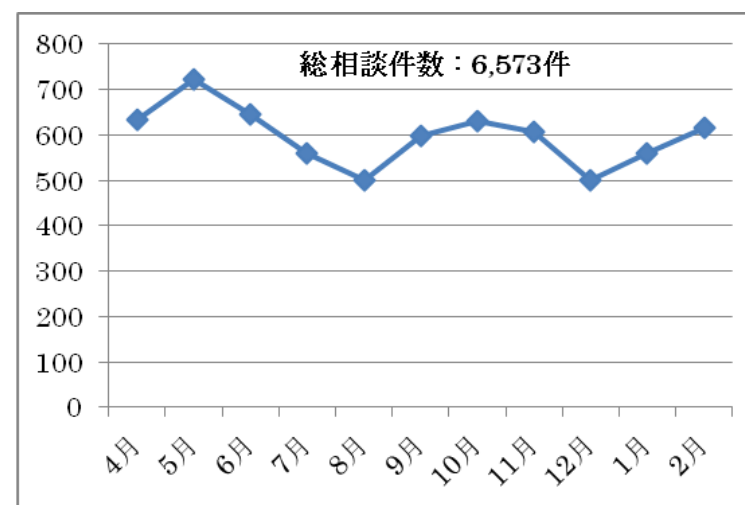


(2013. 4 / NO.108)

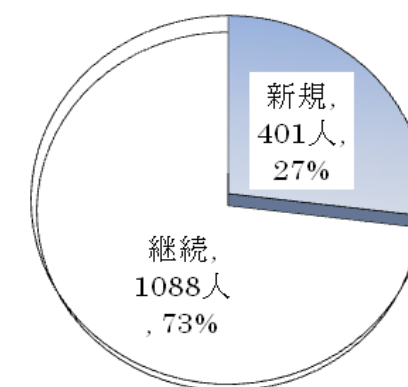
〔発行〕 社会福祉法人 生活クラブ
柏市地域生活支援センター あいネット
〒277-0004 柏市柏下65-1 ウェルネス柏内
TEL04-7165-8707 FAX04-7165-8709
HP: <http://ai-net.a.la9.jp/>
e-mail: ainet@kazenomura.jp

平成24年度を振り返って

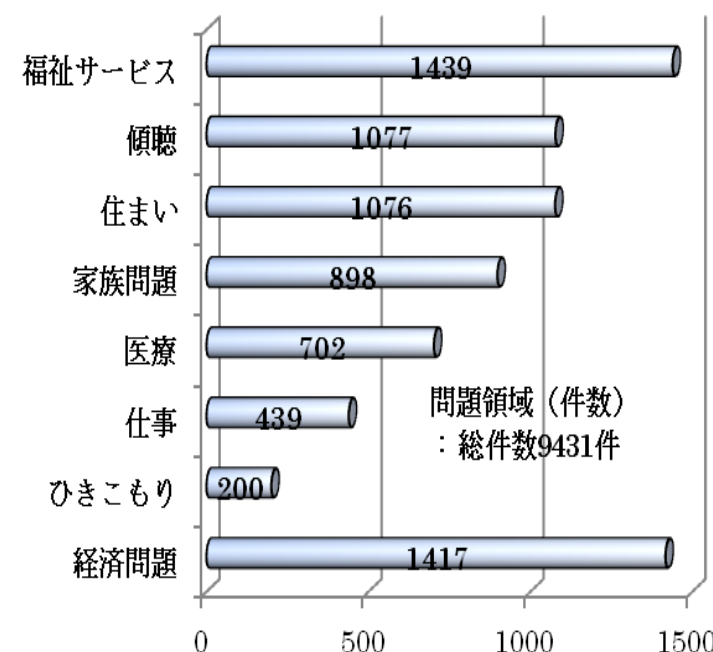
平成24年度が終わり、新年度を迎えました。関係各機関の方々には大変お世話になり誠にありがとうございました。平成24年度のあいネットへの相談内容をデータから振り返ってみたいと思います。



総実人数：1,489人



2012年4月から、2013年2月までの11カ月の間に扱った総相談件数は、6,573件でした。月の平均は約600件です。相談者の実人数では、1年間で合計1,489の方が利用されました。そのうち、新規の相談者は合計401名でした。毎月、約36名の方が新規であいネットを利用されています。



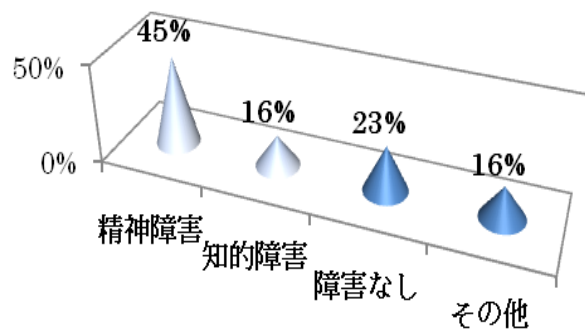
相談される方の問題領域は、ひとりで複数の問題を抱えているケースが多くあります。

昨年度、あいネットにて扱った問題領域は、総計9,431件のにのぼりました。

経済問題に関連して、住まいや仕事、福祉サービス調整の問題が多くなっています。

傾聴は、主に精神障害をお持ちの方からの電話が占めています。

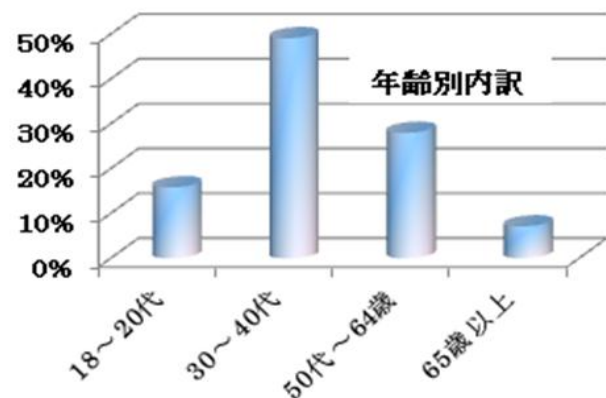
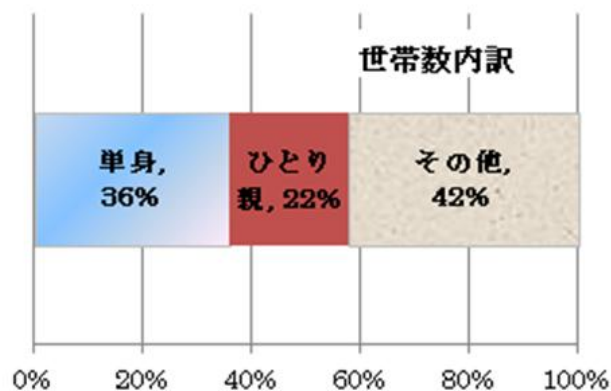
医療関係は、必要に応じて受診同行をしています。家族間の不仲や争い事と言った、家族問題の件数も多くなっています。



あいネットを利用されている方は、障害のある無しに関わらず、様々な方が利用されています。

精神障害の方が最も多く、あいネットの利用者の約半数を占めています。

近年の社会情勢とも相まって、あいネットでも経済問題・精神疾患を抱える方の相談が増えています。生活保護世帯については、あいネットでも申請同行などを行っています。あいネットでの生活保護世帯数は、昨年度は302世帯でした。



あいネットの相談者は、単身世帯の30代から40代の方が約半数を占めています。以上のデータから、あいネットの利用者の半数は、経済問題、精神疾患を抱える単身の30代から40代の方が多いという結果が読み取れます。厚生労働省などから発表されている、国のデータなどから見ても、経済的困窮世帯、単身世帯、心の病、30代、40代の自殺率の高さなど、増え続けている事は、連日ニュース等から知っている方も多いと思います。あいネットの現状も、それを反映しているものと言えるでしょう。生活保護世帯は、全国で約213万世帯となり、ますます増え続けています。さらに、生活保護を受けられずに経済的に困窮している世帯も数多く存在していると思われます。健康問題や心の問題、年齢、雇用情勢、人間関係が苦手などの問題を抱えて上手く働けない人も多いと思われれます。

このような方たちの自立や社会参加などを支援するためには、地域の行政だけでは難しい事が多いので、民間サービスとの連携が必要とされる場面がこれからますます増えてくると考えられます。あいネットでは、今後もさまざまな機関と連携しながら、ひとりひとりの問題を一緒に解決していく方法を探していきたいと考えております。

<ひとこと>

4月からもよろしくお願ひします。
スタッフ一同
(永桶、白田、川野、中野、吉尾、阿曾、佐々木)



「現場から問う生活支援あり方」 ～総合相談支援センターの制度化を目指して～

3月2日に千代田区の主婦会館プラザエフにて「現場から問う生活支援のあり方」の研修会に参加しました。この研修は、平成27年度に法制度化を目指している総合相談支援センターを見据えたものでした。

総合相談支援センターとは

複合的な課題を抱える生活困窮者に対して包括的・個別的に支援を行う。基本的な考えは、生活保護に至る前の段階で早期に支援を行い、困窮状態からの脱却を図る。平成27年度の法制度化を目指し、平成25年度～26年度にモデル事業が実施される。

生活再建の現場からの報告では、行政の生活再建対策の充実を求める全国会議代表幹事である青山弁護士とグリーンコープやまぐち生協生活再生相談室相談員の吉田氏からの報告がありました。

青山弁護士からは多重債務等の相談を受け、法的な処理（債務整理等）を行っても、本人の生活再建がなされていない場合があるとの報告がありました。債務問題の背景に、精神疾患（例えばギャンブル依存）や就労の問題、住まいや家族の問題があり、そういった問題の解決を図らなければ、根本的な問題の解決には至らないとの事でした。

吉田氏からは家計再生支援の立場から報告がありました。生活困窮状態からの抜け出すためには、総合的な支援が必要であり、特に、金銭に関する課題を抱えている場合は相談（定期的な家計チェック）と貸付がセットになった相談窓口が必要であるとの事でした。

その後、厚生労働省社会・援護局地域福祉課生活困窮者自立支援室室長の熊木氏から「生活支援戦略における総合相談支援センター構想について」と題した基調講演がありました。生活保護受給者が戦後を含めても過去最高を更新している中、生活保護に至る手前である第二のネット（求職者支援制度）の強化が求められる時代になった。特に、稼働年齢世代の生活保護受給者が17%となっている事から、稼働年齢世代の就労支援において、仕組み作りが必要であるとの事。生活保護制度の改革と生活困窮者支援制度の導入の一体的な実施が必要であるとの事でした。

これまでの日本は、個人を地域や企業が支えてきました。しかし、社会状況の変化の中で、国や地方自治体、民間団体等が個人を支える仕組み作りが必要になってきました。総合相談支援センターが、単に生活保護の受給者を減らす水際作戦ではなく、その人にとっての「自立」を支えるものであって欲しいと感じました。

お知らせ

◇こちらのコーナーへ掲載希望の方は、あいネット（電話：04-7165-8707 FAX：04-7165-8709）

講演名	日時	場所	費用	申込み	問合せ先他
平成25年度千葉県 TEACCH プログラム研究会 第1回連続セミナー 「自閉症スペクトラムの特性理解と支援」～TEACCHに学ぶ～（仮題）	平成25年 5/11（土） 13:30～16:30	千葉県 教育会館 大ホール	会員 1000 円 非会員 2000 円 学生 1500 円	必要	<お申込み方法> 氏名・所属・住所・電話番号をご記入の上、ファックス、メールにてお申込み下さい。 千葉県 TEACCH プログラム研究会事務局（縄岡・金森） 千葉県発達障害者センターCAS内 電話：043-227-8557 FAX：043-227-8559 mail: cas@mue.biglobe.ne.jp